

第3次芦屋市地域福祉計画評価シート 団体

団体名	地域福祉アクションプログラム推進協議会		
所属人数	5人（男女の比率 男：女 = 1：4）		
平均年齢	50代		
任期の有無	有（年）	・	無
役職の有無	有（任期：なし）	・	無

1 誰でも参加できるか ▶▶▶▶ できる

2 新たに始めた活動はあるか ▶▶▶▶ ある 「シニアのための災害時に役立つスマホ講座」

目的：世代間交流をしながら、スマートフォンで情報を入手する方法を学ぶこと。

内容：災害時の情報の入手手段（アプリ、防災ネット、市HP等）について、芦屋大学や甲南高校の学生を講師として、マンツーマンで実際に登録や検索などの操作を試みる。

動機：スマホを持っていてもほとんど利用できていない友人たちが、マンツーマン指導ならスマホの壁を越えられるのではないか。情報の入手、更には発信もできるようになればと思い提案したことが始まり。

3 活動の担い手は足りているか ▶▶▶▶ 足りていない

課題：若い世代は昼間忙しく時間が合わないため、どうしてもメンバーが高齢化になる。

人員が固定化しているが、活動の説明が難しいため、うまく誘えないところもある。

方法：活動紹介の動画を作成し、イベントなどで見てもらう機会をつくってPRしていく。

4 外部（役員以外の者を含む）からの意見を団体の活動等に取り入れているか ▶▶▶▶ はい

毎月の会議で互いに出し合う皆の意見により、会が運営されている。

5 他の団体と活動することはあるか ▶▶▶▶ ある

地域のイベント（あきまつり等）を盛り上げたり、人手不足等で支援が必要になったりした際にヘルプ要員としても参加することが多く、活動のほとんどは他の団体と関わりながら活動している。いろいろな地域に行きたい思いがあるので、地域でイベントを実施する際には声をかけてほしい。

今後いろいろな団体と世代を超えた交流を通して、団体の活動を広めていきたい。

6 所属の団体（活動も含め）のPRや感想

特別な技術がなくても、メンバーの一員として様々な人たちと関わり、役に立てるところがいい。地域福祉を念頭に取組の発案をすれば、それを実現できるように皆で考え取り組むことができる団体である。例えば、ちょっと休憩したいときに座ってお喋りできる「ベンチ」の設置を発案したら、「わがまちベンチプロジェクト」として取り組むこととなったのがその一例。今後も1町に1台を目標にPRしていく予定である。

これからも活動を通して他の地域や団体と関わり、声を掛け合う関係を作っていきたいので、一緒に活動してくれる人を増やすためにも、いろいろな町のイベントに出かけていきたい。